

〈創立45周年シリーズ〉第4回

モーツァルト室内管弦楽団

第165回定期演奏会

〈モーツァルトとハイドン〉その9

Mozart und Haydn

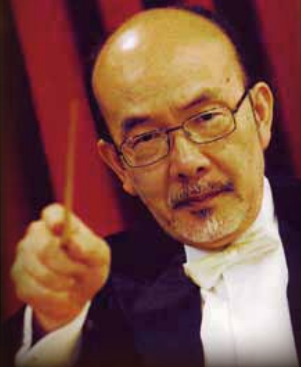
モーツァルト

交響曲 第36番 ハ長調 K.425 《リンツ》

ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364

ハイドン

交響曲 第88番 ト長調 Hob.I-88



指揮◆門 良一

開演10分前より指揮者によるプレトーク有



《ヴァイオリン》

馬淵 清香



《ヴィオラ》

馬淵 昌子



2015.

7/19(日)

いずみホール

2:00pm開演(1:30pm開場)

入場料：一般 ¥5,000(指定席) / 学生 ¥1,000(当日限定数発売) *小学生よりご入場いただけます。

JR環状線「大阪城公園」駅から徒歩3分、「京橋」駅から徒歩7分、
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から徒歩5分。
有料駐車場完備

主催◆モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org> 協賛◆いずみホール [一般財団法人 住友生命福祉文化財団]

マネジメント◆大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504 e-mail:artists@gol.com

(*5月2日以降の新住所 〒530-0041大阪市北区天神橋3-3-3南森町イシカワビル5F)

前売

大阪アーティスト協会 050-5510-9645(電話受付:平日10~18時) いずみホール 06-6944-1188 チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:260-626)

ローソンチケット 0570-084-005(Lコード:53096)

*大阪アーティスト協会は世界の子どもたちの未来を支える大阪ユニセフ協会に賛同し、コンサート会場で募金活動等を行いながら、音楽を通して少しでも社会に貢献できるような取り組みを続けています。皆様のあたたかいご支援ご協力をお願い申し上げます。



モーツァルトとハイドンの「親密な関係」

モーツァルト室内管弦楽団が続けている〈モーツァルトとハイドン〉というシリーズは、この二人の何らかの意味で関係のある作品を比較演奏するという趣旨を持っているが、今回は私が以前から取り上げたいと思っていた2曲の交響曲を演奏する。ハイドンを深く尊敬していたモーツァルトは、特に弦楽四重奏曲と交響曲の分野でハイドンの作品を研究し、その手法を知り尽くしたといってもよい境地にまで達していたと思える。モーツァルトの《リンツ交響曲》は急な演奏会の依頼によって急いで作らねばならなかった曲なのだが(当時、交響曲というのは演奏会の幕開け用に必要とされる程度の曲種であった)、まるでハイドン作品のコピーを見るような出来になっている。ハイドン独特の大胆な大らかさの中に、モーツァルトらしい繊細な色どりが込められたすばらしい傑作である。ハイドンのコピーとは言っても、モーツァルトはハイドンがその時点ではまだやっていなかった新しいことを二三試みている。つまりモーツァルトは「ハイドンはいずれこのように書くだろう」とハイドンの未来を予言しているのである。ハイドンの方はどの程度モーツァルトの作品を知っていたのか明らかでないが、その「予言」に答えたのがハイドンの《88番》ではないかと思う。この2曲の交響曲を聴いていただいてこの二人の天才の稀有な関係を再認識していただきたいと願う次第である。

門 良一

モーツァルト室内管弦楽団／指揮：門 良一 *Mozart-Kammerorchester Japan / Ryoichi Kado, Dirigent*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、45年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョア・オ・ピリス(85、87年)、シブリアン・カツリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を、15年からは〈創立45周年シリーズ〉を開始している。

馬淵清香●ヴァイオリン *Sayaka Mabuchi, Violin*

大阪府出身。3歳よりヴァイオリンを始める。87年全日本学生音楽コンクール第3位、90年同コンクール第1位。桐朋学園大学に入学。在学中、国内外の音楽祭に参加。イタリア・シエナのキジアーナ音楽祭にてファイナルコンサート出演。キジアーナ・ディプロマ賞受賞。97年桐朋学園大学卒業。コンセールヴィヴァン・オーディション最優秀賞受賞。スイス・ローザンヌVn. Pf. アカデミー参加。イタリア・グッビオ国際Duoコンクール入選。東京国際芸術協会主催新人オーディション合格。同協会レ・スプレンドル音楽コンクール室内楽部門入賞。これまでに、小国英樹、原田幸一郎、工藤千博、森悠子、田辺良子の各氏に、室内楽を岩崎淑、R.ブレンゴラの各氏に師事。現在、Duo Moon Stones、四次元三重奏団のメンバーとして活動する他、オーケストラ、室内楽、ソロ等で幅広く活躍している。

馬淵昌子●ヴィオラ *Shoko Mabuchi, Viola*

大阪府出身。桐朋学園大学及びパリ国立高等音楽院の大学院、卒業。第2回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール第3位及び特別賞受賞。第3回国民文化祭inひょうご新人音楽コンクール第1位。松尾学術振興財団室内楽コンクール第1位。第5回宝塚ベガホール音楽コンクール弦楽器部門入賞。92年・東京国際音楽コンクール室内楽部門第2位及びアサヒビール賞受賞。93年ミュンヘン国際音楽コンクールヴィオラ部門第3位(1位なし)。これまでに霧島音楽祭、倉敷音楽祭、フィンランド・クフモ音楽祭、イタリア・ドロミテ音楽祭等に出演。現在、国内外でソロ、室内楽を中心に主要オーケストラの客演首席としても活躍中。紀尾井シンフォニエッタ東京、トウキョウ・モーツァルト・プレーヤーズ(首席)、いずみシンフォニエッタ大阪、アンサンブル・ベガ、サイトウキネンオーケストラ、ウィルタス・クワルテットのメンバー。「馬淵昌子ヴィオラリサイタル」ソロCDがロンドミュージックレーベルよりリリースされている。